

普及活動情勢報告（平成30年8月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

四万十町で就農を希望している方々を支援 ～高南地域営農協議会就農相談会の開催～	
	8月13日、四万十農協会館で第1回就農相談会がお盆休みに合わせて開催され、県外2組を含む6組12名が参加しました。 関係機関が、産地提案書や、園芸用ハウス整備事業、制度資金などの支援策の概要を説明した後、個別に就農相談を受けました。 参加者からは、農地の確保の仕方や、制度資金の活用イメージなどについての質問がありました。 普及所は、町役場やJA、農業担い手育成センターなど関係機関と連携して、相談者への継続した支援を行っていきます。

集落営農組織のビジョン・事業戦略の策定に向けて ～集落営農塾の開催～	
	7月30日、8月17日、四万十町役場多目的ホールで普及所が集落営農塾を開催し、集落営農法人など6組織延べ19名が参加しました。 広島経済大学の山本公平教授を講師に、事業戦略の重要性や中期経営計画の策定方法などを学んだ後、組織ごとに分かれてビジョンや戦略、ロードマップづくりなどの実習を行いました。 参加者からは、「実習は大変、だけどビジョンや戦略を可視化して皆で共有することは重要」などの声が聞かれました。 普及所は、3回目の集落営農塾を8月30日に開催し、事業戦略の取りまとめや、その発表などを行う予定です。

高南地域で加工用栗の産地化を目指して ～高南地域栗生産協議会設立総会の開催～	
	7月31日、四万十町役場会議室で高南地域栗生産協議会設立総会が開催され、関係機関・団体等から成る委員など16名が参加しました。 この協議会は、担い手の減少等により営農が難しくなった農地などに、需要が多い加工用栗の生産振興を図るため設立されたもので、同日、栗産地構造改革計画を策定し、産地が目指す目標も決めました。 普及所は、JA四万十や、四万十町役場、中土佐町役場等と連携し、その産地計画に基づく取組を推進します。

栗の生産向上に向けて ～JA高知はた大正・十和栗部会8月現地検討会～	
 園地での講習	8月3日、四万十町大正・十和地域内の3カ所の園地で、JA高知はた栗部会の現地検討会が開催され、生産者延べ27名が参加しました。 栗剪定士からは、本年は大雨による土壌流亡による生理落果が多いこと、その対策として土づくりが重要であることなどの話があり、普及所は、マダニによる感染症とその対策等について説明しました。 生産者からは、「確かに地力の低いところが多く生理落果している」「やっぱり土作りは大事」などの声が聞かれました。 今後も、JA高知はたや栗剪定士と連携して、栗の栽培技術の向上に取り組んでいきます。

露地ショウガの生産安定に向けて～低濃度エタノールを利用した土壌還元消毒実演会の開催～	
 実演ほ場(低濃度エタノールを土壌にかん水処理)	8月8日、四万十町大正地域のほ場で普及所が土壌還元消毒実演会を開催し、露地ショウガの生産者14名が参加しました。 露地ショウガ栽培で最も問題となっている土壌病害対策の新技术の展示・実証として、農業技術センターの協力も得て実施しました。 普及所は、土壌還元消毒の処理方法や、防除効果などについて説明しました。生産者からは、処理費用や防除効果について質問が出されるなど、高い関心が示されました。 今後も、JA四万十など関係機関と連携し、露地ショウガの土壌病害対策などの課題解決に向けて支援していきます。

高温期の安定生産に向けて ～JA四万十水耕セリ部会現地検討会の開催～	
 安定生産に向け意見交換する部会員	8月10日、四万十町内3カ所のほ場でJA四万十水耕セリ部会の現地検討会が開催され、部会員6名が参加しました。 高温期の発芽不良とそぐり手の不足が、安定出荷を実現するうえで大きな課題となっており、JAは、遮光率を変えた発芽試験の結果を報告しました。普及所からは、そぐり作業の効率化を目指し、作業手順をマニュアル化することを提案し、マニュアル化に取り組んでいくことが了承されました。 今後は、そぐり作業のマニュアル化の取組を支援していきます。

安心・安全な野菜生産の推進

～JA四万十みどり市直販部会講習会の開催～



講習会の様子

7月31日、JA四万十本所会議室でJA四万十みどり市直販部会講習会が開催され、部会員27名が参加しました。

普及所からは、熱を加えずに食する葉もの野菜の衛生管理について注意喚起を行いました。未熟な家畜糞堆肥や水、そして出荷時の手の汚れなどから病原菌が感染することが多いことを説明し、予防のポイントや衛生管理の重要性を理解してもらうことができました。

普及所は今後もJA四万十と連携しながら、安全・安心な野菜生産を進めていきます。